

PREPARATION OF BATH AGENT CONSISTING ESSENTIALLY OF BEEHIVE

Patent number: JP60146820
Publication date: 1985-08-02
Inventor: KURIHARA EIJIYU
Applicant: EIJIYU KURIHARA
Classification:
- international: A61K7/50; A61K35/02; A61K35/64
- european:
Application number: JP19830246542 19831230
Priority number(s):

Abstract of JP60146820

PURPOSE: To obtain a bath agent, effective for neuroses such as rheumatism and prosopalgia, etc. and various dermatopathies, by incorporating a dried powder of a beehive with herbal powder, having drug effect on the dermatopathies, and rich in light green dyestuff.

CONSTITUTION: A beehive, e.g. an empty beehive of wasps or scoliids built in soil or a dead tree, is dried to give powder, which is as a main constituent incorporated with a herbal powder, e.g. a leaf of *Sasa albo-marginata* or mugwort, having drug effect on mainly dermatopathies, and rich in light green dyestuff. The addition of the herb reduces the color of hot and cold water darkening in the case of only the powder of the beehive, and an offensive smell is reduced.

Data supplied from the *esp@cenet* database - Worldwide

⑩ 日本国特許庁(JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報(A)

昭60-146820

⑬ Int.Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

⑭ 公開 昭和60年(1985)8月2日

A 61 K 7/50
35/02
35/646675-4C
7138-4C
7138-4C

審査請求 未請求 発明の数 1 (全2頁)

⑯ 発明の名称 蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法

⑰ 特 願 昭58-246542

⑱ 出 願 昭58(1983)12月30日

⑲ 発 明 者 栗 原 栄 寿 宇都宮市南大通り2丁目2番2号

⑳ 出 願 人 栗 原 栄 寿 宇都宮市南大通り2丁目2番2号

㉑ 代 理 人 弁理士 福田 尚夫

明 細 書

1. 発明の名称 蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法

2. 特許請求の範囲

1) 蜂の巣を乾燥後粉末とし、その粉末を主成分としてこれに淡緑色系に染んだ且つ主として皮膚疾患に薬効のある薬草の粉末を混加したことを特徴とする蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法。

2) 蜂の巣を、土中乃至古木の穴に作られるすだめ蜂、土蜂等の空巣とした特許請求の範囲第1項記載の蜂の巣を主成分とする入浴剤の製法。

3. 発明の詳細な説明

本発明は、蜂の巣を利用し、主としてリウマチ、顔面神経痛等の神経症並びに各種皮膚疾患に効能のある入浴剤を得ようとするものである。

本発明者は、古来からの伝承として、すだめ蜂等の巣に、リウマチ、顔面神経痛などの治療力があることを聞いているが、今日に至るまで、その試行品を見たことがない。

本発明者はこのことに着想し、まずすだめ蜂の空巣を採取して来て粉末とし、これを布袋にパックして湯中に浮かべてみた。ところが、巣の強の場合、湯水があたかも醤油のようにとろろくなり、

また異様な臭気を発散し、さらにアレルギーの心配もあってそのまゝの使用には抵抗があった。

そこで本発明者は、この空巣を主体としながら、上配色と臭気の緩和並びに皮膚への極端な刺激を避けられ、さらに神経症に止まらず、各種皮膚疾患にも効能を発揮する入浴剤を開発したものである。

以下実施例によって説明すると、まず原料として次の物質を用いる。

原 料	量 目
㊦ すだめ蜂の空巣	70
㊦ イネ科・煎餅の葉	10
㊦ バラ科・ユーカリの葉	10
㊦ ヤク科・よもぎ	10

㊦のすだめ蜂の空巣は、採取したものを陰干した後粉末にする。㊦～㊦の各薬草も同じく陰干した後粉末にする。そして㊦を主成分としてこれに㊦、㊦、㊦を上記量目比で混合する。

蜂の巣とリウマチ等の神経症との関係については上記伝承の科学的説明に俟たなければならないが、本発明者の推理では、巣の素材が、蜂の体の腹部から分泌するミツロウの薄片、すだめ蜂、土蜂にあってはさらに多量の蜜のしぼ、やに類であること及び空巣には管巢中に蓄えられたミツ、樹液の残渣物やハチ毒などが含まれていることから、

これらの物質の綜合作用として神経痛に著効あるものと思われる。なお樹皮にヘチ毒がタンパク質系の複雑な物質からなり、少量のヒスタミンを含み、神経痛患者の治療に効果があることはこれまでも知られているところである。

イネ科の煎液の薬、バラ科のユーカリの葉、ヤク科のよもぎは、いずれも淡緑色を呈してそれらの粉末の溶解作用により時の空気の粉末によってどす黒くなる湯水の色を淡色化するとともに各々の芳香が混加されて異様な臭気を緩和する。またいずれも果実として殺菌作用、アレルギー等の皮膚疾患治療力を保持する。

さて実際に入浴剤として使用するには、上記各原料の混合粉末を布袋、ろ紙袋等にパックしたものを浴槽の湯水中へ投ずる。すると数分の内に湯水が淡い茶赤色に色付き、また強い臭気は消えてほのかな薬草の香りを発散する。

使用量については特に制限なく、多量に使用してもさしつかえない。本発明者の実験では、ぬるま湯で一日数回入浴することが効果的である。

本発明による入浴剤により、既に多くのリウマチや顔面神経痛に悩む者が短時日に治癒しており、またじんましん等のアレルギーにも著効のあることが確認された。なお健康人が使いれば、神経症や皮膚病の予防となり、また皮膚面が艶やか

になることも実証された。

特許出願人 栗原 栄 寿
代理人 弁理士 福 田 尚 夫

